

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびねすくらぶ北坂戸NEXT			
○保護者評価実施期間	令和7年2月13日		～	令和7年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・小学生向け施設と中高生施設で特性ごとに分けているため、きめ細やかな対応ができている ・日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている ・こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題に対応している	・こどもの将来像をイメージして、生活面においてスキルを高めている ・保護者の方とモニタリングの場で課題の共有を行い、個別でできる範囲で対応している	・中高生と小学生からの2つの施設で対応できるようにもう1店舗を検討している
2	・職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保している ・業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている ・虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	・職員の質を高めるために、法定研修、内部研修、外部研修参加の情報提供を行っている	・働いている人のモチベーションが上がるように、資格の取得と処遇について対応している
3	・活動プログラムが固定化しないよう工夫している ・ボール活動を週2回行っている	・生活スキルや発表の場を設けたり、自分自身で考える力を養っている ・ボール活動で、泳力によって3チームに分かれ、成功体験を得られるようなプログラムを立てている	・生活スキル活動の幅を広げていく ・保護者にボール活動を見学してもらう機会を作る

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解 ・学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供	・施設自体が中高生の施設なので、対応ができない ・相談支援員に情報は伝えているが、就労アセスメントや最終の会議には放課後等デイサービスは、参加が予定されていない	・相談支援員、保護者の方には書面でお渡しする ・最終のモニタリングを保護者の方と行う
2	・家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供	・施設内でのペアレントトレーニングについては対応していない	・個別での相談や進学のアドバイスなどの継続 ・外部研修などの情報提供の継続
3	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 ・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会	・保護者の方にそこまでは求められていない現状	・地域のイベントの参加を続けていく ・活動の中で、制作物の販売などがいずれきたら ・ボールの見学会などの交流の場を提供していく